
ハチャメチャリバー

ACES

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハチャメチャリバー

【NZコード】

N9222A

【作者名】

ACES

【あらすじ】

暇潰しに、普段着のまま川へと向かつた三人の元に現れた二人の少女。生き残りをかけた謝罪が、今始まる！

(前書き)

いやあ、くだらない作品です。なんとなく、書き連ねた作品です。
しかも面白くないです。それほどの心で、はい。すいません。なんか申し訳ないです。

村を流れる川を前に、三人の少年が佇んでいた。それぞれが鉤を手にしている。

「なあ。」

最年長のNが呟き始めた。

「川入つて魚獲つてバーべキュー。そこまでは問題ない。」

「うん。」

Nより一つ年下のOが相槌を打つ。Oよりさらに一つ年下のWは黙つている。

「しかし、なぜそんな結論に至るわけ？」

Wが応えた。

「暇だつたから。」

「わかつた。暇だからだな。しかし、ジーンズで潜るのは厳しくな
いか!?」

「確かに。暇を潰すなら、もつとなんかあるんじゃないか？」
OがNに賛同する。するとその意見を認めようとしないWは悪あがきを始めた。

「魚が食いたいかあーつ！」

沈黙。

「バーべキューをしたいかあーつ！」

沈黙。

「いよおーうし！」

唖然とするNとOを無視し、Wが川へと飛込んだ。

「アソッ、アホか？」

「ヤツはカツパに違いない。」

「妖怪かあ。」

「英語でなんて言うのかな？ウォーターモンスター？」

「妖怪はインプだな。」

「」

「インプかあ。」

「おい、インプ上がってこねえぞ？」

「死んだか？」

沈黙。

「ぶはあ！」

「おお、生きてた！」

「デカイのいる！」

「あ～らそう、凄いわね奥さん。」

「ほんとねえ。」

「つていうか、入つてよ。」

川から上がってきたWをよそに、NとOは大袈裟に考える仕草をする。そこへ、一人の少女が一人の後ろに忍び寄つた。

「後ろ！」

一人はそれを聞いて振り向いた。

「ん？」

二人が少女に気が付いた瞬間、Nは少女の内のひとりに突き飛ばされた。

「のわつ！」

「ザバーン！！」

かなり大きな水しぶきとともにNの体は川へと消えた。

「な、つょつと待つどう おおう！」

続けてOも、Nと同じように川へと突き落とされた。とは言え高さは数十センチ。死ぬはずはない。

「電話くらい出なさいよ！」

「アンタたちは恋人の声を無視するの！？」

「えーっと、Aさん、Kさん。誤解です。」

恐る恐る話しかけたWを一人の鋭い視線が襲う。いかにも『黙りなさい！』と言う感じで。

「二人はその、俺が引っ張り込んだんです。NとOは悪くないです。」

「

Wが言つた瞬間、AとKは強烈な飛び蹴りでWを川へと吹き飛ばした。

「つおうー。」

三人が水面から顔を出すと、AとKが腰に手を当て、陸から三人を見下ろしていた。

「謝つたら許してあげる。」

「その前に、俺が何をしたの？」

「そ、そう。こんなことされる覚えがないです。」

「さあ。でも、謝るまでずっと水に使っててもうのには変わりはないから。」

「そ、そんなあ。」

その後三時間経つまで三人はずつと怒鳴られ続けた。

(後書き)

失恋から未だ立ち直れない作者です。『めんなさい』・ろくな作品じ
やないです。罵倒、お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9222a/>

ハチャメチャリバー

2011年1月16日06時50分発行